



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月12日

上場会社名 高島株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8007 URL <https://www.tak.co.jp/ja/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 幸一
 問合せ先責任者 (役職名) 経理ユニットマネージャー (氏名) 境 功騎 TEL 03-5217-7297
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	71,138	7.1	1,640	△0.7	1,551	△15.5	970	△20.1
2024年3月期第3四半期	66,416	10.3	1,651	67.8	1,835	67.1	1,214	51.9

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 1,633百万円 (△12.2%) 2024年3月期第3四半期 1,859百万円 (15.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	56.57	—
2024年3月期第3四半期	68.27	—

(注1) 当社は、2023年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合をもって株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(注2) 2024年3月期末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定をしており、2024年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	61,953	23,636	38.2	1,379.31
2024年3月期	60,409	23,578	39.0	1,362.75

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 23,636百万円 2024年3月期 23,578百万円

(注) 当社は、2023年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合をもって株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	20.00	—	40.00	60.00
2025年3月期	—	40.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	40.00	80.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 2024年3月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 特別配当 15円00銭

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	94,000	4.3	2,000	14.4	2,000	△0.2	1,600	△66.9	93.31

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	17,262,892株	2024年3月期	17,762,892株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	126,309株	2024年3月期	460,640株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	17,147,429株	2024年3月期3Q	17,784,942株

（注）当社は、2023年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合をもって株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
(4) 株主還元	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11
[期中レビュー報告書]	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、2026年3月期を最終年度とする中期経営計画「サステナV（バリュー）」において親会社株主に帰属する当期純利益1,900百万円、ROE8.0%以上、ROIC6.0%以上の達成を目標として掲げております。

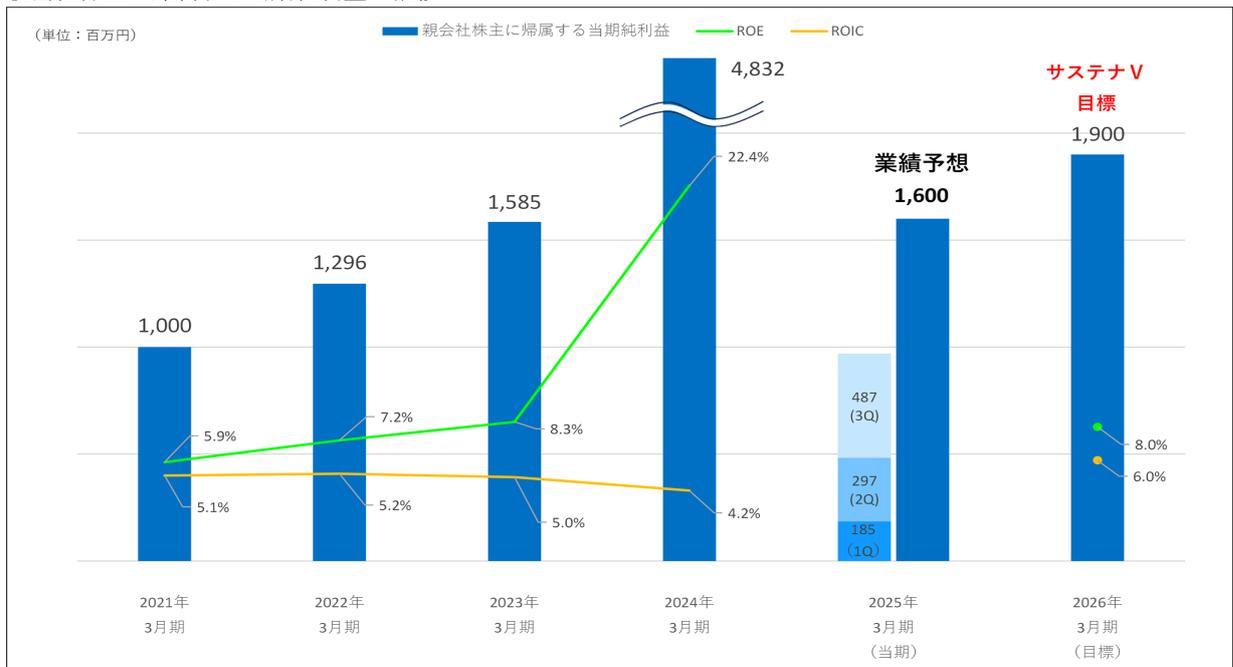
当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は71,138百万円（前年同四半期7.1%増）、営業利益は1,640百万円（同0.7%減）となりました。各セグメントの経営成績については後述の通りであります。経常利益につきましては、在外子会社における現地通貨安の影響による為替差損が増加したことなどによって、1,551百万円（同15.5%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前第3四半期連結累計期間では投資有価証券売却益を計上しておりましたが、当第3四半期連結累計期間では売却を実施していないため、970百万円（同20.1%減）となりました。EBITDAは2,816百万円（同8.5%増）となりました。

(単位：百万円)

	前期	当期	増減額	増減率
売上高	66,416	71,138	4,722	7.1%
営業利益	1,651	1,640	△11	△0.7%
経常利益	1,835	1,551	△284	△15.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,214	970	△244	△20.1%
EBITDA	2,595	2,816	221	8.5%

※EBITDA：営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

親会社株主に帰属する当期純利益の推移



セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、2024年3月期にアセットアロケーションの見直しを実施しており、産業資材セグメントの事業再編、主要な固定資産の売却に伴い、従来賃貸不動産セグメントに区分していた一部物件を「建材」、「産業資材」に変更しております。また、各セグメントにおける利益の状況及び各部門が直接的に担う利益水準をより明確にするため、従来セグメントごとに配賦していた全社費用を配賦する前のセグメント利益を開示しており、当該全社費用は調整額に含めて開示しております。

前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

<セグメント売上高>

(単位：百万円)

セグメント	前期		当期		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
建材	42,590	64.1%	46,815	65.8%	4,224	9.9%
産業資材	12,465	18.8%	13,175	18.5%	709	5.7%
電子・デバイス	11,240	16.9%	11,169	15.7%	△71	△0.6%
賃貸不動産	133	0.2%	—	—	△133	△100.0%
合計	66,430	100.0%	71,160	100.0%	4,729	7.1%
調整額	△14	—	△22	—	△7	—
連結財務諸表計上額	66,416	—	71,138	—	4,722	7.1%

(注) 調整額はセグメント間取引高の消去であります。

<セグメント利益>

(単位：百万円)

セグメント	前期		当期		増減額	増減率
	営業利益	構成比	営業利益	構成比		
建材	1,641	64.7%	1,299	49.4%	△342	△20.8%
産業資材	525	20.7%	727	27.6%	201	38.4%
電子・デバイス	292	11.5%	605	23.0%	313	107.1%
賃貸不動産	78	3.1%	—	—	△78	△100.0%
合計	2,538	100.0%	2,633	100.0%	94	3.7%
調整額	△887	—	△993	—	△105	—
連結財務諸表計上額	1,651	—	1,640	—	△11	△0.7%

(注) 調整額はセグメント間取引の消去及び各報告セグメントに配分していない全社経費であります。

①建材セグメント

建材セグメント全体の売上高は46,815百万円(同9.9%増)、セグメント利益は1,299百万円(同20.8%減)となりました。

建設資材分野は、大型物件を獲得したこと、及び2023年6月に連結子会社化した岩水開発株式会社について前年同期は5か月分の寄与であったものが当期については9か月分の寄与となったことにより増収となりました。また、再生可能エネルギー分野においては、市況活況を背景に堅調に推移したことから増収となりました。一方で、セグメント利益については、建設資材分野において一部物件の収益性が下振れたこと、断熱資材分野で市場低迷により出荷が減少したこと、及び間接経費の負担が増加したことにより減益となりました。

②産業資材セグメント

産業資材セグメント全体の売上高は13,175百万円(同5.7%増)、セグメント利益は727百万円(同38.4%増)となりました。

樹脂関連資材分野は、自動車関連や電子機器・精密機器関連の部材・物流資材を中心に受注が拡大し、近年低迷が続いていた鉄道車輛も回復基調となり増収となりました。繊維関連資材分野は、トラック資材を中心とする重布関連の復調や産業用機能性繊維の伸長、また防衛省向け装備品や建築用繊維製品の受注の拡大により増収となりました。セグメント全体としては、樹脂資材・繊維資材の両分野で増収したことに加えて、連結子会社の工場稼働率が向上したことにより増益となりました。

③電子・デバイスセグメント

電子・デバイスセグメント全体の売上高は11,169百万円（同0.6%減）、セグメント利益は605百万円（同107.1%増）となりました。

日本国内の民生電子機器市場及び白物家電市場は依然厳しい状況にあります。デバイス分野は、電子部品の供給不足の反動で主要顧客に積みあがっていた部品在庫の出荷が進んだことにより、受注数が増加しましたが、価格競争激化により増収減益となりました。一方で、アセンブリ分野は、白物家電関連が低調に推移しましたが、デジタルカメラ関連が前年より受注が拡大し、減収増益となりました。

④賃貸不動産セグメント

前連結会計年度において賃貸ホテルの売却を行っているため、当第3四半期連結累計期間においては売上高、セグメント利益ともに発生しておりません。

売上高、営業利益のセグメント別構成比は次のとおりです。

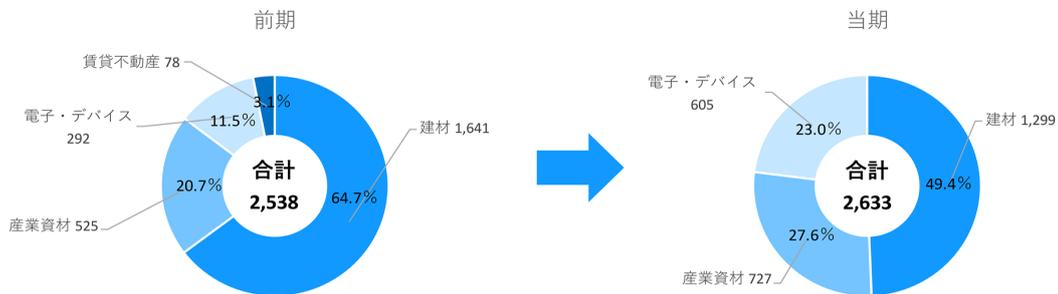
<売上高>

(単位：百万円)



<営業利益>

(単位：百万円)



(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末は、流動資産は44,723百万円（前連結会計年度末比1.9%増）となりました。主な要因は、現金及び預金が5,526百万円減少し、一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が5,302百万円、流動資産のその他が751百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は17,230百万円（同4.2%増）となりました。主な要因は、投資有価証券が602百万円増加し、一方で、のれんが457百万円減少したこと等によるものであります。

流動負債は33,895百万円（同4.8%増）となりました。主な要因は、短期借入金が5,169百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は4,421百万円（同1.3%減）となりました。主な要因は、長期借入金が259百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は23,636百万円（同0.2%増）となりました。主な要因は、配当金の支払により利益剰余金が1,377百万円減少し、一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が970百万円、為替換算調整勘定が297百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

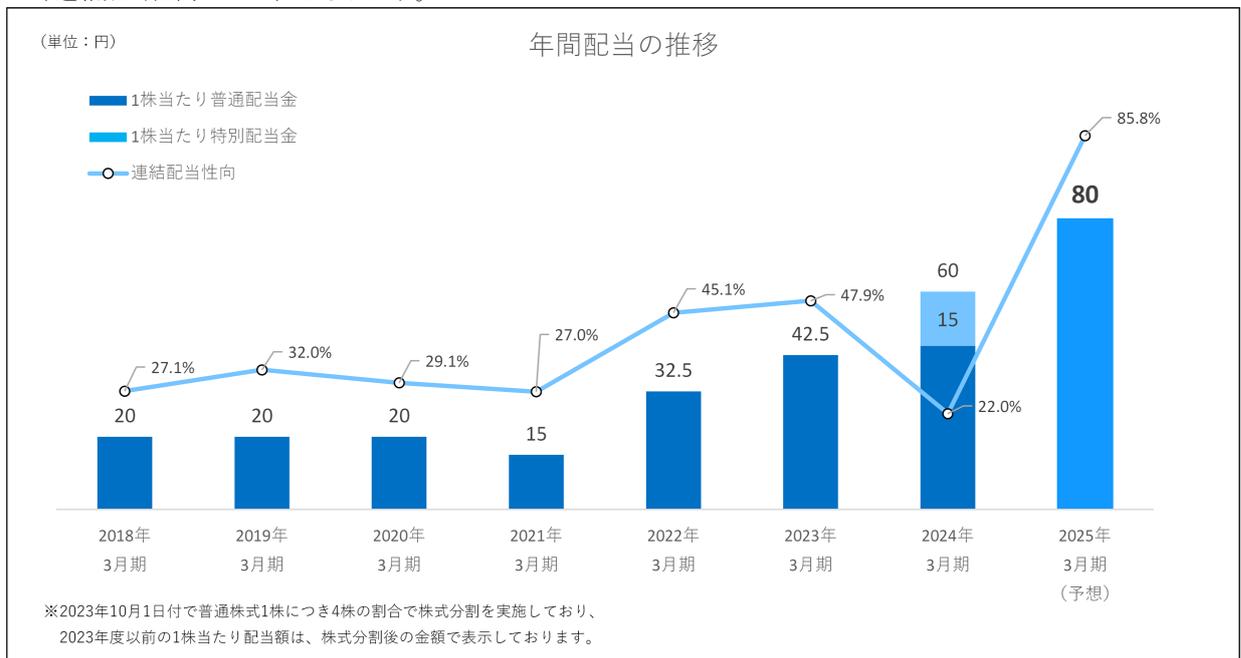
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月9日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました2025年3月期通期の連結業績予想に変更はありません。

(4) 株主還元

当社は「戦略的投資を伴う持続的成長企業」を目指し、成長投資を拡大させる一方で、資本効率性を意識し、株主還元を実施することを基本方針とし、具体的には、連結配当性向40%以上の配当を每期行い、総還元性向50%を目標としておりましたが、ROE 8%以上の達成に向けて、資本効率性の更なる向上が必要であるという認識のもと、サステナV（バリュー）の最終年度までの2年間の限定措置として、配当性向80%以上、総還元性向100%と変更することいたしました。

上述の株主還元方針に基づき、当期におきましては、1株当たり80円の年間配当を予定しており、業績予想に基づく連結配当性向は85.7%となります。



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,371	6,845
受取手形、売掛金及び契約資産	23,438	28,740
商品及び製品	4,971	5,121
仕掛品	152	347
原材料及び貯蔵品	1,367	1,286
未成工事支出金	70	130
その他	1,538	2,290
貸倒引当金	△33	△39
流動資産合計	43,877	44,723
固定資産		
有形固定資産	4,762	4,819
無形固定資産		
のれん	5,611	5,153
その他	998	970
無形固定資産合計	6,609	6,124
投資その他の資産		
投資有価証券	2,862	3,465
退職給付に係る資産	435	442
その他	2,015	2,480
貸倒引当金	△154	△102
投資その他の資産合計	5,159	6,286
固定資産合計	16,531	17,230
資産合計	60,409	61,953

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,647	15,581
電子記録債務	5,585	4,639
短期借入金	4,807	9,977
未払法人税等	2,375	221
賞与引当金	773	402
役員賞与引当金	103	28
その他	2,056	3,043
流動負債合計	32,349	33,895
固定負債		
社債	20	10
長期借入金	2,095	1,836
退職給付に係る負債	146	134
その他	2,219	2,440
固定負債合計	4,481	4,421
負債合計	36,830	38,317
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,801	3,801
資本剰余金	1,553	751
利益剰余金	16,898	16,646
自己株式	△603	△155
株主資本合計	21,649	21,043
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	867	1,273
土地再評価差額金	32	32
為替換算調整勘定	931	1,229
退職給付に係る調整累計額	98	57
その他の包括利益累計額合計	1,929	2,592
純資産合計	23,578	23,636
負債純資産合計	60,409	61,953

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	66,416	71,138
売上原価	57,151	61,399
売上総利益	9,264	9,739
販売費及び一般管理費	7,613	8,099
営業利益	1,651	1,640
営業外収益		
受取利息	62	48
受取配当金	106	93
持分法による投資利益	4	5
為替差益	17	—
その他	61	62
営業外収益合計	253	210
営業外費用		
支払利息	58	69
為替差損	—	194
その他	10	35
営業外費用合計	68	299
経常利益	1,835	1,551
特別利益		
固定資産売却益	—	25
投資有価証券売却益	423	—
関係会社株式売却益	—	14
その他	40	—
特別利益合計	463	39
特別損失		
固定資産除却損	32	—
投資有価証券売却損	11	—
子会社清算損	102	—
特別損失合計	146	—
税金等調整前四半期純利益	2,153	1,590
法人税、住民税及び事業税	698	404
法人税等調整額	241	216
法人税等合計	939	620
四半期純利益	1,214	970
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,214	970

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,214	970
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68	406
為替換算調整勘定	570	297
退職給付に係る調整額	6	△40
その他の包括利益合計	645	663
四半期包括利益	1,859	1,633
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,859	1,633

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成しております。

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日）、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 2022年10月28日）及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日）を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年12月14日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式202,700株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が241百万円増加しております。

また、2024年6月18日開催の取締役会決議に基づき、2024年7月1日付で、自己株式500,000株の消却を実施いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金及び自己株式が637百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が155百万円となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	612百万円	719百万円
のれんの償却額	331	457

(注) 前第4四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第3四半期連結累計期間に係る各数値について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	建材	産業資材	電子・デバ イス	賃貸不動産			
売上高							
外部顧客への売上高	42,590	12,464	11,227	133	66,416	—	66,416
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	0	13	—	14	△14	—
計	42,590	12,465	11,240	133	66,430	△14	66,416
セグメント利益	1,641	525	292	78	2,538	△887	1,651

(注1) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(注2) 前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額を記載しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「建材」セグメントにおいて、岩水開発株式会社を当社の連結子会社としたことに伴い、のれんを計上しております。なお、前第3四半期連結累計期間においては、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算定された金額でありましたが、前第4四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額が暫定的に算定した5,370百万円から、5,025百万円に変動しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	建材	産業資材	電子・デバ イス	賃貸不動産			
売上高							
外部顧客への売上高	46,804	13,174	11,159	—	71,138	—	71,138
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	0	10	—	22	△22	—
計	46,815	13,175	11,169	—	71,160	△22	71,138
セグメント利益	1,299	727	605	—	2,633	△993	1,640

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

2024年3月期にアセットアロケーションの見直しを実施しており、産業資材セグメントの事業再編、主要な固定資産の売却に伴い、従来賃貸不動産セグメントに区分していた一部物件を「建材」、「産業資材」に変更しております。また、各セグメントにおける利益の状況及び各部門が直接的に担う利益水準をより明確にするため、全社費用の配賦基準を変更しております。前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年2月10日

高島株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

猪 俣

雅 弘

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

中 島

悠 史

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている高島株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年10月1日から2024年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は、当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータおよびHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。